

日本語の形容詞と動詞の区別における形態と意味： 韓国語との対照を中心に

上原 聡 (東北大学)

0. はじめに

影山プロジェクト・リーダー：

「日本語の特質、日本語の特色」ということをセールスポイントにして、その点が鮮明になるような成果を挙げていきたいと思っています

目的：日本語の形容詞の形態が「—い」で終わることの類型論的な意味を明らかにする

アウトライン： 1. 類型論的な形容詞の位置づけ
2. 日韓語の形容詞と動詞の区別
3. 統語との関わり
4. 形態上の区別の歴史上の変化

1. 類型論的な形容詞の位置づけ 「形容詞はどこへ行ったの？」

言語の主要3品詞(名詞、動詞、形容詞)のうち、形容詞のない言語がある。

・Dixon (1977) “Where have all the adjectives gone?”

・Whaley (1997) *Introduction to Typology*

絶対的普遍性の例の1つ： 「全ての言語は名詞と動詞の区分をする」

非絶対的普遍性の例の1つ： 「ほとんどの言語は形容詞を持つ」

・Croft (1991)

形容詞は、名詞と動詞に比べると二次的(secondary)なカテゴリーとなる

Dixon の典型的な形容詞の意味クラス

寸法(dimension)、物体の性質(physical property)、色(color)、

人の性質(human propensity)、年齢(age)、評価(value)、速度(speed)

1.1 名詞と動詞の区別：述定機能における有標性の差

名詞：述定機能において最も有標となる

動詞：述定機能において最も無標となる

述定機能

英語：名詞 (He) is a student.

動詞 (He) walks.

中国語：名詞 我 是 学生。

wǒ shì xué shēng

私 である 学生

私は学生です。

動詞 我 (每天) 跑步。

wǒ měi tiān pǎo bù

私 毎日 ジョギングする

「私は(毎日)ジョギングする。」

タイ語：名詞 khǎw pen nákrīan

彼(女) である 学生

「彼は学生です。」

動詞 khǎw wīn (thúk wan)

彼(女) 走る 毎日

「彼は(毎日)ジョギングする。」

韓国語：名詞 그녀는 학생 이었다.

(日本語) kunye-nun haksayng i-ess-ta.

彼女 は 学生 だった

「彼女は学生だった。」

動詞 그녀는 (사과를) 먹었다.

kunye-nun (sakwa-lul) mek-ess-ta.

彼女 は (りんごを) 食べた

「彼女はりんごを食べた。」

1.2 形容詞 vs. 名詞と動詞の区別

英語形容詞： (He) is good.

中国語形容詞： 这个 好， 那个 坏。
zhè ge hǎo, nà ge huài
これ いい それ 悪い
「これはいいが、あれは悪い。」

タイ語形容詞： khǎw sǔay
彼女 美しい
「彼女は美しい。」

形容詞がどちらのタイプか、による言語の類型が可能

名詞型形容詞を有する言語

動詞型形容詞を有する言語

韓国語形容詞： 날씨가 좋았다.
(日本語形容詞) nalssi-ka coh-ass-ta.
天気 が 良かった
「天気が良かった。」

同じ動詞型形容詞を有するアジアの言語でも形態的な類型の違い

孤立型言語： 中国語、タイ語

膠着型言語： 韓国語、日本語

2. 日韓語における形容詞と動詞の形態的区別（膠着型言語間の差異）

韓国語における形容詞と動詞の区別は、日本語のそれのように形態的に明確ではない。

2.1 辞書形の一致：

表1 日韓語における動詞／形容詞の対照(1)

		<u>日本語</u>	<u>韓国語</u>
辞書形	(動)	食べ- <u>る</u>	mek- <u>ta</u>
	(形)	少な- <u>い</u>	cek- <u>ta</u>
否定形	(動)	食べ- <u>ない</u>	mek- <u>ci anh-ta</u>
	(形)	少な- <u>く ない</u>	cek- <u>ci anh-ta</u>

2.2 活用形式の一致（活用上の区別なし）：

日本語では動詞にしかない活用形による下位分類（五段動詞、下一段動詞など）が韓国語では動詞と形容詞の両方に跨がって存在する。

日本語： 形容詞 [ク活用]

動詞 [五段活用・上/下一段活用・サ行/カ行変格活用]

韓国語： 用言の活用表があり、それに形容詞と動詞が混在

例：規則活用用言 (ka-ta ‘行く’、cha-ta ‘冷たい’、など)

1変則活用用言 (nel-ta ‘遊ぶ’、kil-ta ‘長い’、など)

同音異義語 ilu-ta の例：

<u>辞書形</u>	<u>意味</u>	<u>過去形</u>
ilu-ta	‘着く, 至る’ [動詞 1]	ilulessta
ilu-ta	‘言う, 諭す’ [動詞 2]	illessta
ilu-ta	‘早い’ [形容詞]	illessta

「この場合、品詞と活用の仕方は関係がないため
学習上の手がかりにはなりません。」松本 (2008:57)

2.3 派生形式の一致： 日本語では形容詞と動詞で異なった形式を持つ使役派生形、尊敬派生形なども韓国語では同形である

表2 日韓語における動詞／形容詞の対照(2)

	日本語	韓国語
使役形 (動)	食べ- <u>させる</u>	mek- <u>key ha-ta</u>
(形)	少な- <u>く</u> する	cek- <u>key ha-ta</u>
尊敬形 (動)	<u>お送りになる/送られる</u>	ponay- <u>si-ta</u>
(形)	<u>お美しい</u>	yeypu- <u>si-ta</u>

2.4 動詞／形容詞間の派生形式： 日本語では動詞と動詞の間にしかない自他の対応が、韓国語では動詞と形容詞の間の垣根を越えて存在する。以下では他動詞化辞としての-hiの例（日本語の「着る ki-ru」=>「着せる ki-se-ru」の「せ-se」などに当たる）を示す：

表3 韓国語における他動詞化辞による派生

動詞	ip-ta ‘着る’	→	動詞	ip- <u>hi</u> -ta ‘着せる’
形容詞	nelp-ta ‘広い’	→	動詞	nelp- <u>hi</u> -ta ‘広げる’
形容詞	palk-ta ‘明るい’	→	動詞	palk- <u>hi</u> -ta ‘明かす’

2.5 漢語・外来語の活用形式の一致

漢語・外来語などが形容詞的意味、動詞的意味に使用される際にも、日本語ではそれぞれ「だ」/「な」を伴う場合（例：「健康だ」）と、「する」を伴う場合（例：「勉強する」）に形態上分かれるが、韓国語ではどちらも「ha-ta」を伴う

表4 日韓語における漢語・外来語の活用

	日本語	韓国語
(動詞的意味)	勉強 <u>する</u>	kongpwu(工夫)- <u>ha-ta</u>
(形容詞的意味)	健康 <u>だ</u>	kenkang(健康)- <u>ha-ta</u>

=>韓国語／朝鮮語を母語とする学習者の日本語によく見られる誤用（例：「*健康する」）の要因の1つ（田窪 1987、油谷 2005）。

2.6 韓国語の述部形態において動詞と形容詞の違いは全くない？

=>実際の言語使用の中では皆無ではない。

表5 日韓語における動詞／形容詞の対照(3)

		日本語	韓国語
hanta 体現在形	(動)	食べ- <u>る</u>	mek- <u>nun-ta</u>
	(形)	少な- <u>い</u>	cek- <u>ta</u>
同否定形	(動)	食べ- <u>ない</u>	mek- <u>ci anh-nun-ta</u>
	(形)	少な- <u>くない</u>	cek- <u>ci anh-ta</u>

ただ、韓国語のこの動詞／形容詞間の形態的違いは、hanta 体でしかも現在形にしか現れない。

表6 日本語の動詞／形容詞間の形態的相違

		現在形	過去形
丁寧体	(動)	食べ <u>ます</u>	食べ <u>ました</u>
	(形)	少ない <u>です</u>	少なかった <u>です</u>
普通体	(動)	食べ <u>る</u>	食べた
	(形)	少ない <u>い</u>	少なかった

表7 韓国語の動詞／形容詞間の形態的相違

例：動詞 (mek-ta‘食べる’) と形容詞 (cek-ta‘少ない’)

			現在形	過去形
丁寧体	hapnita 体	(動)	mek- <u>supnita</u>	mek- <u>ess-supnita</u>
		(形)	cek- <u>supnita</u>	cek- <u>ess-supnita</u>
	hayyo 体	(動)	mek- <u>e-yo</u>	mek- <u>ess-e-yo</u>
		(形)	cek- <u>e-yo</u>	cek- <u>ess-e-yo</u>
普通体	hay 体	(動)	mek- <u>e</u>	mek- <u>ess-e</u>
		(形)	cek- <u>e</u>	cek- <u>ess-e</u>
	hanta 体	(動)	mek- <u>nun-ta</u>	mek- <u>ess-ta</u>
		(形)	cek- <u>ta</u>	cek- <u>ess-ta</u>

2.7 形容詞と動詞の形態的区別

中国語、タイ語 < 韓国語 < 日本語

3. 形容詞と動詞の形態的区別とその言語の統語現象との関わり

英語の典型的な結果構文

- a. She painted the wall red.
- b. He washed the shirt clean.

=>構文スキーマ NP V NP AP

日本語の結果構文の構造 [結果句を「—く／に」で表す]

- a. 彼女は壁を赤く塗った。
- b. 彼はシャツをきれいに洗った。

韓国語の結果構文の構造 [結果句を「—KEY」で表す]

- a. ku-nun pyek-ul ppalkah-key chilhay-ssta.
彼は 壁を 赤く ぬった
- b. ku-nun shyechu-lul kkaykkusha-key ssis-essta.
彼は シャツを きれいに 洗った

日本語では不可能だけれど韓国語では可能な結果構文

Kim and Maling (1998)

- c. kil-i cilphekha-key nwun-i nok-assta.
道が だろだろに 雪が とけた
- d. Robin-i paykkop-i ppaci-key wus-essta.
ロビンが へそが 外れる-KEY 笑った

Shim and den Dikken (2007) [from Park (2010)]

- e. Jim-i Susana-lul nemeci-key mil-ess-ta.
Jim-が Susana-を 転ぶ-KEY 押す-過去
- f. Jim-i thakca-lul kkaykkushay-ci-key takk-ass-ta.
Jim-が テーブル-を きれい-になる-KEY 拭く-過去

Carrier and Randall (1992) [from Horita (1995)]

- c. The gardener watered the tulips *flattened/*wilting/flat/soggy.
=> The gardener watered the tulips so that/until they were flattened.

中国語・タイ語の結果構文

- 中国語 a. 她 涂 红 了 墙。
Tā tú hóng le qiáng
彼女 塗る 赤い-ASP 壁
‘彼女は壁を赤く塗った。’
b. 他 把 衬衣 洗 干净 了。
Tā bǎ chèn yī xǐ gān jìng le
彼 を シャツ 洗う きれい ASP
‘彼はシャツをきれいに洗った。’

=>構文スキーマ： NP V V NP (VV compound/複合動詞)

- c. 她 打 死 了 他。
Ta da si le ta
she hit die/dead ASP him
‘She hit him dead.’

- タイ語 a. sǒmchaay kwàat phúun sà?àat
ソムチャイ 掃く 床 美しい
‘ソムチャイが床をきれいに掃いた。’
b. sǒmchaay rīit sūa rīap
ソムチャイ アイロンがけする シャツ なめらか
‘ソムチャイはシャツをきれい(皺無し)にアイロンがけした。’

=>構文スキーマ： NP V NP V

- c. sǒmchaay tii khǎw taay
Somchaay hit him die/dead
‘Somchaay hit him dead.’

中国語・タイ語では、「形容詞」ではなく「状態動詞」と呼ばれる所以

4. 日本語における形容詞と動詞の形態的区別の歴史的变化

Quinn (1987) 文語の形容詞と動詞、両者の中間的な存在動詞

(有り、居り、侍り、いまそかり) いわゆる「ラ行変格活用動詞」

形容詞	-si
存在動詞	-r-i
動詞	-(r)-u

計3分類が現代語の2分類に 文語の唯一段終止形であるラ変の消滅

これは国語学では、文語にあった9種類の活用形式が5種類に減ったという変化の一部

(形容詞も、シク活とク活の区別が消滅)

歴史的变化の傾向の1つ：(意味に基づいた) 形態上の区別の減少傾向

=>一般統合化・形態上の反細分化

5. まとめ

注：本発表は、上原・熊代 2007 で部分的に発表したものを追加・発展させたものである。発表者は以下の人々にデータ提供・確認の上で感謝申し上げる：金アラン、横山由香、金普仁、鄭世桓、大塚真理子（以上韓国語）、佟利功（中国語）、Kingkarn Thepkanjana（タイ語）。

参考文献

- Carrier, Jill and Janet Randall. 1992. "The argument structure and syntactic structure of resultatives" *Linguistic Inquiry* 23: 173-234.
- Croft, William. 1991. *Syntactic Categories and Grammatical Relations: The Cognitive Organization of Information*. Chicago: University of Chicago Press.
- Dixon, R. M.W. 1977. "Where have all the adjectives gone?" *Studies in Language*, 1 (1): 19-80.
- Horita, Yuko. 1995. A cognitive study of resultative constructions in English. *English Linguistics* 12: 147-172. English Linguistic Society of Japan.

- 松本 隆 2008. 『韓国語から見えてくる日本語～韓流日本語鍛錬法～』 3 A
- Park, Dong-woo. 2010. “-key construction in Korean” Paper presented at 2010 SICOL at Korea University, June 2010.
- Quinn, Charles J. 1987. *A Functional Grammar of Predication in Classical Japanese*, 3 vols. Ann Arbor, Mich.: University Microfilms.
- Shim, J.Y. and den Kikken, M. 2007. The tense of resultatives – The case of Korean. *NELS* 38: 337-350.
- Uehara, Satoshi. 1991. “Does Japanese Have 4 Major Syntactic Categories? – A Cognitive Principle behind Categorization” In Croft (ed.), *Michigan Working Papers in Linguistics*, Vol. 2: 80-93. Ann Arbor, MI: Program in Linguistics at the University of Michigan.
- Uehara, Satoshi. 1998. *Syntactic Categories in Japanese: A Cognitive and Typological Introduction. Studies in Japanese Linguistics 9*. Tokyo: Kurosio Publishers.
- 上原 聡 2002. 「日本語における語彙のカテゴリー化-形容詞と形容動詞の差について-」大堀壽夫（編）『認知言語学2：カテゴリー化』（「シリーズ言語科学3」）81-103、東京大学出版会.
- 上原 聡 2004. 「何故プロトタイプ構造かー日本語の「形容動詞」に見るプロトタイプ構造形成の歴史的考察ー」『認知言語学論考 No.3』 51-91、ひつじ書房.
- 上原 聡・熊代文子 2007. 『音韻・形態のメカニズムー認知音韻・形態論のアプローチ』（講座認知言語学のフロンティア第1巻） 研究社.
- Uehara, Satoshi, Qing-Mei Li, and Kingkarn Thepkanjana. 2001. “A contrastive study of resultative constructions in Japanese, Korean and Mandarin Chinese: A cognitive approach” In *Proceedings of The First Seoul International Conference on Discourse and Cognitive Linguistics: Perspectives for the 21st Century*, 292-304. The Discourse and Cognitive Linguistic Society of Korea.
- Uehara, Satoshi and Kingkarn Thepkanjana. 2001. “Toward a typology of resultative constructions: a case study of some languages of Pacific Rim Asia” The Fourth International Conference of Association of Linguistic Typology (ALT IV), University of California, Santa Barbara.
- Whaley, J. Lindsay. 1997. *Introduction to Typology: The Unity and diversity of Language*. Thousand Oaks: Sage Publications, Inc., [大堀・古賀・山泉（訳）2006 『言語類型論入門：言語の普遍性と多様性』 岩波書店]